

# 特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩 2017年度通常総会 報告

日時：2017年5月21日 14時から15時まで

会場：東京都国分寺労政会館 地下1階 第1会議室

司会：齊藤誠一(事務局)

## 1 理事長挨拶

あっという間に、設立から10年目を迎えることとなった。

発足当初からの会員や支援者の期待に十分応えられているとはいえない。しかし、各図書館が資料保存の取り組みの一環として、多摩地域でのラスト1 or 2になっていないか調べてから廃棄しようとする場合、我々が(株)カーリルとの共同研究で提供しているシステムを活用することにより、調査方法は大きく進展した。多摩地域でこのシステムの活用が始まっているのは前進と考える。新たな10年に向けて、皆さんと考えながら進めていきたい。

## 2 総会成立(定足数)の確認

正会員総数：91(個人89名、団体2団体)

定足数(正会員総数×1÷2)：46

出席者25、委任状出席43、合計68で定足数を満たしており、総会は成立。

## 3 議長の選出

事務局に一任。

座間直壯氏を選出。

## 4 議長挨拶

配布している「次第」により進めていきたいので、議事進行に協力を願う。

## 5 書記及び議事録書名人の選出

議長の指名による。

書記：雨谷逸枝氏(事務局)

議事録署名人：室谷好美氏、吉田光美氏

## 6 議事

### (1) 第一号議案 2016年度事業報告承認について

説明(堀渡 事務局長)

※議案書(事前に郵送配布)に沿って説明

- ・バーチャルな共同保存図書館という点では、(株)カーリルとの共同研究の成果として多摩デポのHP上に公開したシステム「多摩デポ・所蔵確認システム」は、5月に「多摩地域公共図書館蔵書検索システム」(略称：TAMALAS)に名称変更して運用開始。12月には、多摩北部都市広域行政圏(小平・清瀬・西東京・東村山・東久留米)の職員対象に説明会を開催。西東京市のISBN付き除籍候補資料約7,000件を対象とした大量一括確認処理でも一定の成果を得た。ISBN無し資料の同定識別には、まだ多くの課題が残っており、今後も研究を進める。

- ・図書館資料の里親探しについては、シリーズ本1件の成立の他、岩手県大槌町へ参考図書14冊を提供できた。
- ・総会での滋賀県立図書館長國松完二氏の講演「県立と市町立図書館の協力による共同保存の実践」を初めとして、多摩デポ講座は、国立国会図書館の徳原直子氏に「国立国会図書館の蔵書デジタル化計画とまちの図書館、読書の未来」のタイトルで前編・後編の2回お話しいただいた。「多摩地域の図書館行政を担う図書館員に聞く（その3）『私の図書館での仕事、そして多摩六都連携』では、85名の参加者を得た。西国分寺に移転開館した都立多摩図書館のバックヤードツアーも予想を遙かに上回る39名の参加で盛況であった。
- ・「多摩地域公立図書館大会」は、資料保存をテーマとする分科会がなかったため、「多摩デポ講座」の案内チラシ配布のみ行った。
- ・東京都立多摩図書館は、移転に伴い収蔵能力が旧館の2.7倍の285万冊に増加した。「新都立多摩図書館の中に共同保存図書館機能を！」と提起したが、東京都と具体的なやり取りをするまでには至っていない。
- ・「多摩デポ通信」は、第38～41号を発行。2012年度総会時のパネルディスカッションに資料を追加した『「多摩の共同保存のいままでとこれから」記録および資料集』を発行。「多摩デポパンフレット2017.1版」を発行。
- ・ホームページの刷新・充実は、引き続き体制が十分に取れないものの、最新情報の更新・提供に努めた。
- ・東日本大震災被災図書館への支援活動については、今後は里親探し事業での対応に移し、2016年度をもって一区切りつけることとする。

質疑 なし

採決 拍手多数（承認）

## （2）第二号議案 2016年度決算報告及び監査報告承認について

説明（田中ヒロ 会計）

※議案書に沿って説明。

- ・前年度の会費を払い込まれた会員があり、会員実数より多い会費収入となった。
- ・講師謝金については、今年度はどの講座の講師も「受け取ることができない立場である」ということであったため、謝金の支出はゼロとなった。
- ・今年度も、人件費の支出は行わず、毎週事務所に行く事務局員の交通費のみ支出している。
- ・年度内にブックレットが発行できず、バックナンバーの売り上げのみ記載している。
- ・活動に比して、法人税等の税金が重くなっている現状。

### 監査報告

監事が都合で出席できず、司会が「適法かつ妥当と認める」との「監査報告書」を代読した。

質疑 なし

採決 拍手多数（承認）

## （3）第三号議案 2017年度事業計画決定について

説明（堀渡 事務局長）

※議案書に沿って説明

- ・TAMALASの活用で、バーチャルな共同保存の可能性は高まっているが、同時にリアルな共同保存図書館実現への願いも高まっている。バーチャルから全国初のリアルを目指す年

とする。せめて、I S B Nなし資料だけでも優先的に集めるリアル共同保存図書館を実現したい。

- ・西東京市以外の市へも大量一括検索の活用を含め、ラスト1 or 2を確認してから除籍する取り組みを勧めていく。
- ・「東京都多摩地域公立図書館大会への協力・参加」には、今年は大規模な会になる年のため、多摩デポのテーマと合致すれば積極的に参加する。
- ・館長協議会の「多摩地域における共同利用図書館検討プロジェクト報告」に示された「実務担当者の会議」の組織化が実現すれば、連携・協力していく。
- ・多摩デポ通信は年4回発行する。多摩デポブックレット第11号を間もなく発行する。
- ・会員の拡大については、特に現役世代への広がりを目指す。

質疑 なし

採決 拍手多数（承認）

#### （４）第四号議案 ２０１７年度活動予算決定について

説明（田中ヒロ 会計）

※議案書に沿って説明

- ・正会員の増加を見込んだ会員数とした。
- ・ブックレットの発行による収入を見込んだ。経費は、売り上げ実績見合いで計算。
- ・支出については、ほぼ昨年度実績見合いとした。
- ・水道光熱費・通信運搬費は値上げ分を勘案した。

質疑 なし

採決 拍手多数（承認）

#### （５）第五号議案 任期満了に伴う役員の改選について

説明（堀渡 事務局長）

任期は2年。今後2年の役員を提案する。

退任 平山副理事長、国分監事

新任 理事として堀越洋一郎氏、監事として山崎明子氏

再任 平山氏および国分氏を除く8名

質疑 なし

採決 拍手多数（承認）

新任理事挨拶

#### 7 議長及び書記の解任

#### 8 閉会

以上